

図 2-24 太宰府県立自然公園区域（指定地周辺）（太宰府県立自然公園区域図：福岡県 一部加筆）



図 2-25 九州自然歩道福岡県内コースマップ（福岡県環境部自然環境課自然公園係資料）

4) 森林法

指定地及びその周囲には、森林法に基づく保安林と地域森林計画の民有林、林野庁所有の国有林が存在する。

保安林は、水源のかん養、土砂の流出、その他の災害の防備、景観の保全などの公益目的を達するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林であり、これらの機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されている。指定地のうち、上宮地区、東院谷地区、西院谷地区、愛嶽山頂地区の周囲が保安林に指定されている。

地域森林計画に定められる民有林は、その伐採面積に応じて、林地開発の許可申請、事前相談、届出書の提出が必要となる。指定地内のほぼ全域が対象となる。

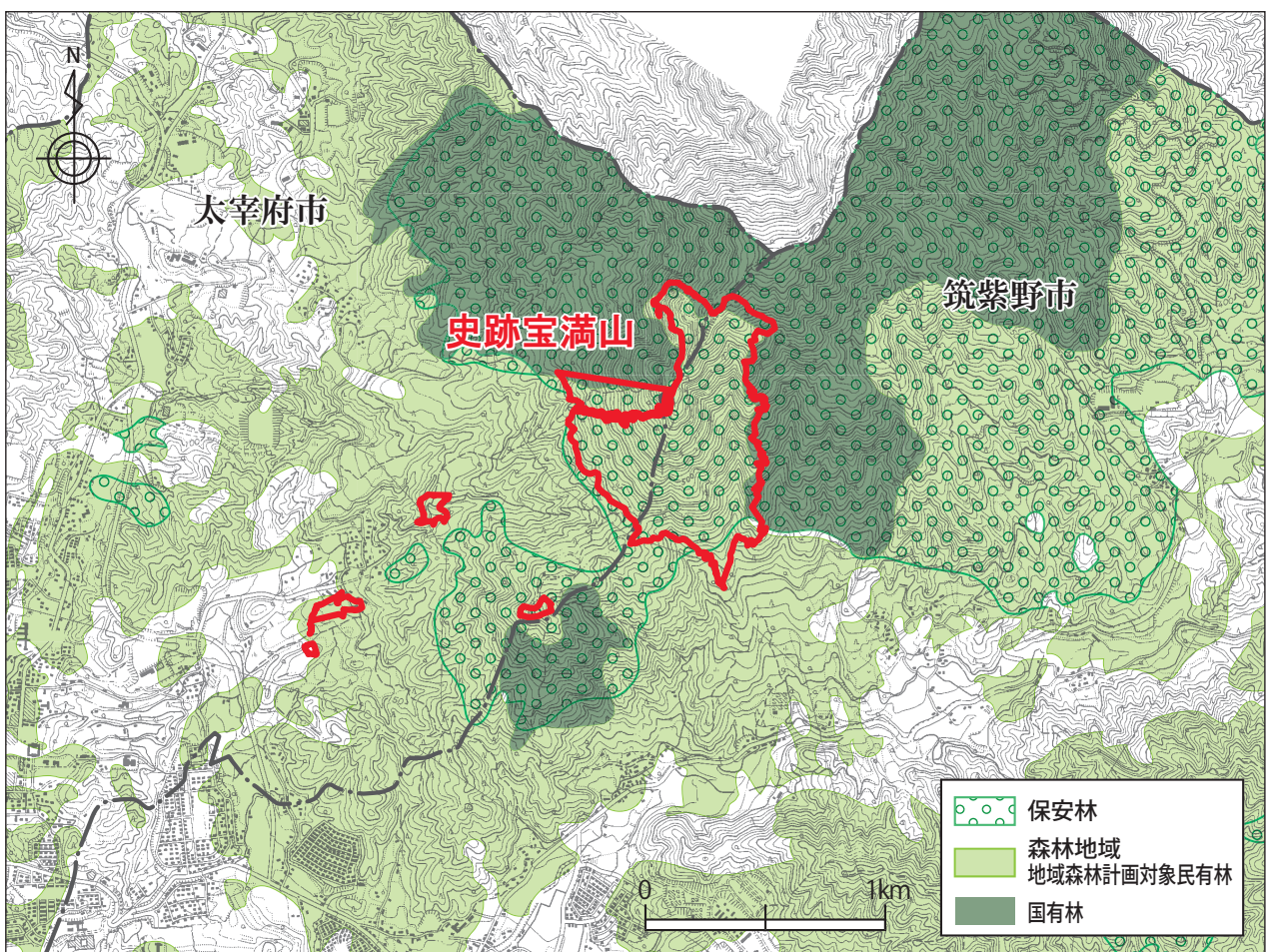


図 2-26 保安林と地域森林計画の民有林 (土地利用調整総合支援ネットワークシステム：国土交通省)

5) 土砂災害防止法

これは土砂災害から国民の生命を守るための法律で、これに基づいて県は土砂災害警戒区域と特別警戒区域を指定できる。

指定地内の下宮地区、大門地区が急傾斜地の崩壊の特別警戒区域と警戒区域、土石流の特別警戒区域と警戒区域に含まれている。指定地外では保護を要する範囲に隣接する太宰府市北谷区の御笠川上流域が土石流の特別警戒区域と警戒区域、筑紫野市側の大石区、本道寺区などが土石流の特別警戒区域と警戒区域に指定されている。

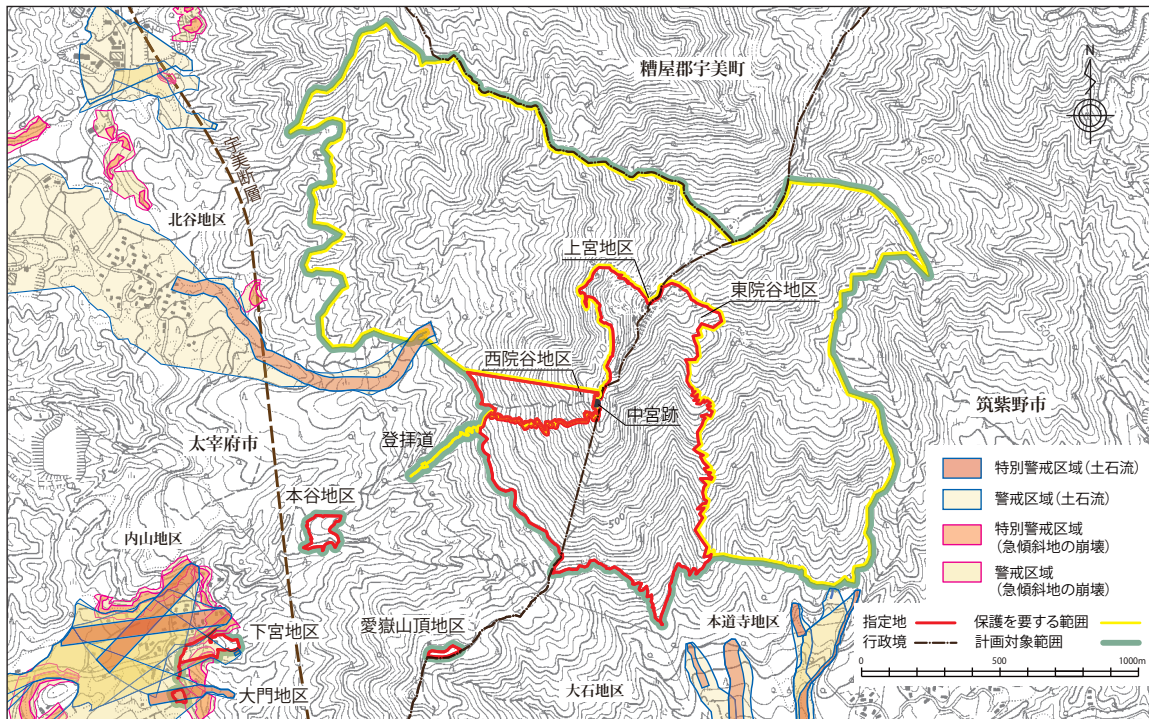


図 2-27 対象範囲内の特別警戒区域・警戒区域（土砂災害警戒区域図：福岡県土整備部砂防課）

(3) 日本遺産

文化庁では地域の歴史的魅力を通じて我が国の文化、伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定している。日本遺産は、世界遺産や文化財指定のように既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている。また、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形、無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援するものである。

平成 27 年 (2015)4 月、初の日本遺産が全国で 18 件誕生し、福岡県太宰府市の地域の歴史を語るストーリー、古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～が認定された。

1) 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～と宝満山

太宰府市内に点在する構成文化財を基に、ストーリーを構築している。

構成文化財は大宰府跡、客館跡、大野城跡、水城跡、観世音寺・戒壇院、梵鐘、筑前国分寺跡、大宰府学校院跡、国分瓦窯跡、宝満山、太宰府天満宮、太宰府天満宮神幸行事、太宰府天満宮の伝統行事、万葉集筑紫歌壇、大宰府条坊跡、官道、軍団印出土地 [御笠団印・遠賀団印]、般若寺跡、南館跡、太宰府の梅となっている。

ストーリーでは、大宰府が世界とつながる西の都であったことや、外国使節を迎える都であり、当時の先進地からの文化が集積され、文化が花開いたことを語っている。

宝満山では奈良時代より山中で国家祭祀が行われ、最澄は入唐の際にここで薬師仏を彫り、航海安全を祈願したとされ、帰朝後は日本六所宝塔を発願し、ここに安西塔が建立された。中世には寺院や大宰府守護の館が置かれ海外交易なども行っていた。このような歴史的背景から外国使節を迎える都、また、外交・交易を語る上で重要な構成文化財として位置づけられている。

2) 「西の都」の普及活動

認定を受けて、太宰府市日本遺産活性化協議会(以下、協議会)が設立された。協議会では、「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」が平成27年(2015)4月に日本遺産の認定を果たしたことを受け、国の補助事業を活用し、ホームページ、スマートフォンやタブレットパソコンで使用するアプリ・パンフレットを、それぞれ5カ国語(日本語、英語、中国語(簡体字体、繁体字)、韓国語)で製作し、公開している。



写真 2-44 特別史跡大宰府跡(政庁地区)



写真 2-45 国宝観世音寺梵鐘

(4) スポーツ振興、観光経済対策

宝満山は年間7～10万人の登山客が訪れている。太宰府市では太宰府市スポーツ振興基本計画のなかで、史跡などを利用したあそび、スポーツの紹介や生涯スポーツの拠点としての活用を図るとしている。

また、太宰府天満宮を中心に国内外から多くの観光客が訪れている。太宰府市では観光基本計画を策定し、前述の日本遺産の認定に伴う取り組みをはじめ、海外からの観光客等の受け入れに向けた取り組みを更に推進して行く予定である。

筑紫野市では地域コミュニティ組織である御笠まちづくり振興会を中心に、健康運動の一環、女性が気軽に参加できるスポーツ交流事業、御笠側からの登山コースを広く知ってもらうなどを目的として、御笠側からの宝満山登山を企画・実施している。

(5) 交通アクセス

宝満山は祈りの山としてだけでなく、福岡都市近郊の日帰り登山ができる山として人気がある。登山ルートは竈門神社から宝満山を目指す正面ルートだけでなく、筑紫野市側、宇美町側、さらには若杉山経由で三郡山を縦走するルートなど様々である。ここでは近隣の登山口である太宰府市竈門神社、筑紫野市大石・本道寺区、宇美町一本松公園(昭和の森)までの交通アクセスを紹介する。

1) 徒歩+電車、バス

○太宰府市竈門神社

西鉄大牟田線で西鉄二日市駅乗り換え、太宰府駅より太宰府市コミュニティバス(まほろば号)

『内山』行終点で下車。竈門神社本殿前から左の車道を100 m登った先にある鳥居が登山口となる。

○筑紫野市大石・本道寺区

JR 鹿児島本線二日市駅、西鉄大牟田線二日市駅、紫駅より西鉄バス『吉木』、『原営業所前』、『太宰府』行に乗車し、吉木入口バス停で御笠自治会バス(宝満川東ルート)に乗り換える。大石公民館バス停、もしくは本道寺の大原バス停で下車し、徒歩で各登山コースを目指す。

○宇美町一本松公園(昭和の森)

JR 香椎線宇美駅より西鉄バス『極楽寺』行に乗車し、障子岳バス停で下車し、20分ほど歩く。

2) 車

○太宰府市竈門神社

九州自動車道太宰府インターチェンジ、または都市高速道路2号線水城インターチェンジから県道112号、72号、35号経由で約8km、九州自動車道筑紫野インターチェンジから県道31号、35号線経由で約9kmで竈門神社下に到着する。有料駐車場(第一駐車場、第二駐車場で計100台)がある。

○筑紫野市大石・本道寺区

九州自動車道太宰府インターチェンジ、都市高速道路第2号線水城インターチェンジから県道112号、72号、65号線経由で約10km、九州自動車道筑紫野インターチェンジから県道31号、65号線経由で約9kmで大石・本道寺区に到着する。周辺に公共の駐車場はない。

○宇美町一本松公園(昭和の森)

九州自動車道須恵スマートインターチェンジから県道35号線経由で約7km、都市高速道路第2号線大野城インターチェンジから、県道60号線経由で約9kmで一本松公園に到着する。公園用の駐車場(290台、大型バス6台(7月～9月のみ利用可))がある。

(6) 維持管理

1) 竈門神社による維持管理

旧坊中が江戸期に管理していた山林の一部(63町8畝21歩)が、明治41年(1908)に竈門神社に編入された。下宮地区に加え、西院谷、東院谷地区の大半は神社社地として、竈門神社により維持管理されている。

2) 両市行政による維持管理

山中の里道(登拝道を含む)や用水路などの法定外公共物は平成17年(2005)3月末までに国から市へ譲与(無償譲渡)されており、現在では両市行政により維持管理されている。

3) 宗教法人天台宗による維持管理

本谷地区で発見された礎石建物(本谷礎石群)が六所宝塔の一つである安西筑前宝塔院と考えられた。これにより宗教法人天台宗は天台宗開宗1200年を記念して、この地を購入整備し、礎石建物跡の隣に石造の宝塔を建立した。本谷礎石群、及び石造の宝塔とその周辺環境は、天台宗及び地元有志により維持管理されている。

4) 西鉄山友会による維持管理

西鉄山友会は昭和38年(1963)から宝満山の環境整備に取り組み、昭和40年(1965)には竈門神社上宮の踊り場下に避難小屋を設置し、羅漢道をはじめとする登山道の整備を行っていった。さらに増え続ける登山者に対応するため、東院谷地区座主跡にキャンプセンター、バイオトイレの建設、キャンプセンターの維持・管理を行うとともに、登山道の整備、バイオトイレの処理、ゴミの清掃処理、登山者への啓発などに取り組み、宝満山の環境保全と荒廃から守る活動を続けていた。平成30年(2018)に50周年を機に活動を終えている。

5) 関係者有志

登山者や地域住民等の関係者有志により、登山道の一部補修や案内板設置など、部分的な維持管理が行われている。

(7) 周辺地区状況

1) 筑紫野市

宝満山の筑紫野市域には、原区、大石区、本道寺区、柚須原区と宝満川を挟んだ対岸に香園区があり、筑紫野市の地域コミュニティの一つである御笠コミュニティに属している。近世には、原区を除く4ヶ村で四ヶ畑と呼ばれており、それぞれ宝満山修験道と密接な関わりを持っていた。

○原区

愛嶽山の南麓に位置する村落で、字中村、字古賀、字谷、字塚口など広範囲に集落が形成されている。産土神は太宰府市内山村の竈門神社である。

○大石区

御笠平野の最深部に当たり、宝満山の南麓に位置する村落で、宝満山東院谷地区に至る登山道が延びている。村の上には大行事原という地名があり、昔松尾寺という坊があったとされ、野火により消失したと伝わる。その際に焼けた本尊、仏躰の灰を埋めて十三塚を築いたと言われている。また産土神として大行事社(現在の高木神社)があり、宝満山二十五坊の富倉坊と亀石坊が祭祀を行っていたといわれている。大行事原、ヤマブシダン(山伏谷)などの地名が残る。愛嶽山東麓は大石区の住人が管理して来た。

○本道寺区

宝満山の東南麓に位置する小規模な集落で、村落景観をよく残している。区内にある大山祇神社は、延享元年(1744)の創建とされ、宝満山二十五坊の仲谷坊が祭礼を行っていた。オザスヤシキ、宗旨谷、アカダン(関伽谷?)、インノクラ(院の倉?)等の地名が残る。指定地に隣接する広域な山林を共有林として永く管理して来た。

○柚須原区

宝満山の東南麓に位置し、四ヶ畑の最も上部で宝満川の源流域にあたる。米ノ山峠を越えると飯塚市と隣接している。小規模な山村集落を形成して村落景観をよく残しており仏頂山へ通じる登山道の起点となっている。

集落後背地にある大山祇神社は江戸時代には岩窟の中に鏡3面を神体として祀っていたと伝わっている。奉仕は宝満山二十五坊の道場坊が近世を通じて行っていた。

神社境内地には観音堂があり、康永3年(1344)の銘がある木像聖観音坐像が安置されていた。また、同じく大永6年(1526)銘の薬師仏が祀られていたが盗難に遭い現存しない。木造聖観音坐像は平成26年(2014)に市有形文化財に指定され、盗難防止のために市博物館で保管している。同観音堂からは、寛文9年(1669)の年紀と宝満山座主平石坊弘有の名が篋描されている瓦質祠が発見され、平成29年(2017)に市有形文化財に指定された。

○香園区

宝満山山麓に南流する宝満川の左岸にあり、柚須原と本道寺の間に位置している集落で、中世には安楽寺天満宮の荘園であった。区内にある天満宮は、宝満山二十五坊の大谷坊が祭礼を行っていたと言われている。

2) 太宰府市

太宰府市側で宝満山に隣接する行政区は北谷区と内山区の2つである。

○北谷区

宝満山の北西に位置する太宰府市の最北端の区である。宝満山麓の大字は内山、北谷があり、これらには有智山寺の僧坊370坊があったとされる。北谷区には小字名で宝満(谷山)、小野(元宮)、別所、大黒寺、智光寺原、ソイラ(キョウツカヤマ)などの地名が残っており宝満山に所在した寺社の痕跡と考えられている。産土神は竈門神社遥拝所である。村落の景観はよく保たれ、昔ながらの景観も比較的よく遺されている。

○内山区

北谷の南に隣接して、宝満山の西麓に位置する。宝満川の支流原川最上流の山間に位置し、集落は産土神である竈門神社下宮を中心に広がっている。竈門神社の境内に、最澄が訪れたとされる竈門山寺跡、刀鍛冶金剛兵衛の墓があり、また南の小山には、永禄年間頃の宝満山の座主浄戒の宅跡が、村中には少弐氏の菩提寺釈迦院の跡、金剛兵衛の屋敷跡など、北谷区と同様、宝満山と関係する寺、僧坊の跡がある。また、登拝道の基点にもなっている。宝満山西麓から愛嶽山の西側は内山区の住民が管理して来た。地名に竈門山、辛野、中堂、御供屋、宮前、釈迦院、本谷、地藏原、オオヤマジ、キョウヤマ、大門、御所ノ内、ビシャモン、浄戒畠などが残り、山内でも惣寺的な施設があったことが推定されている。

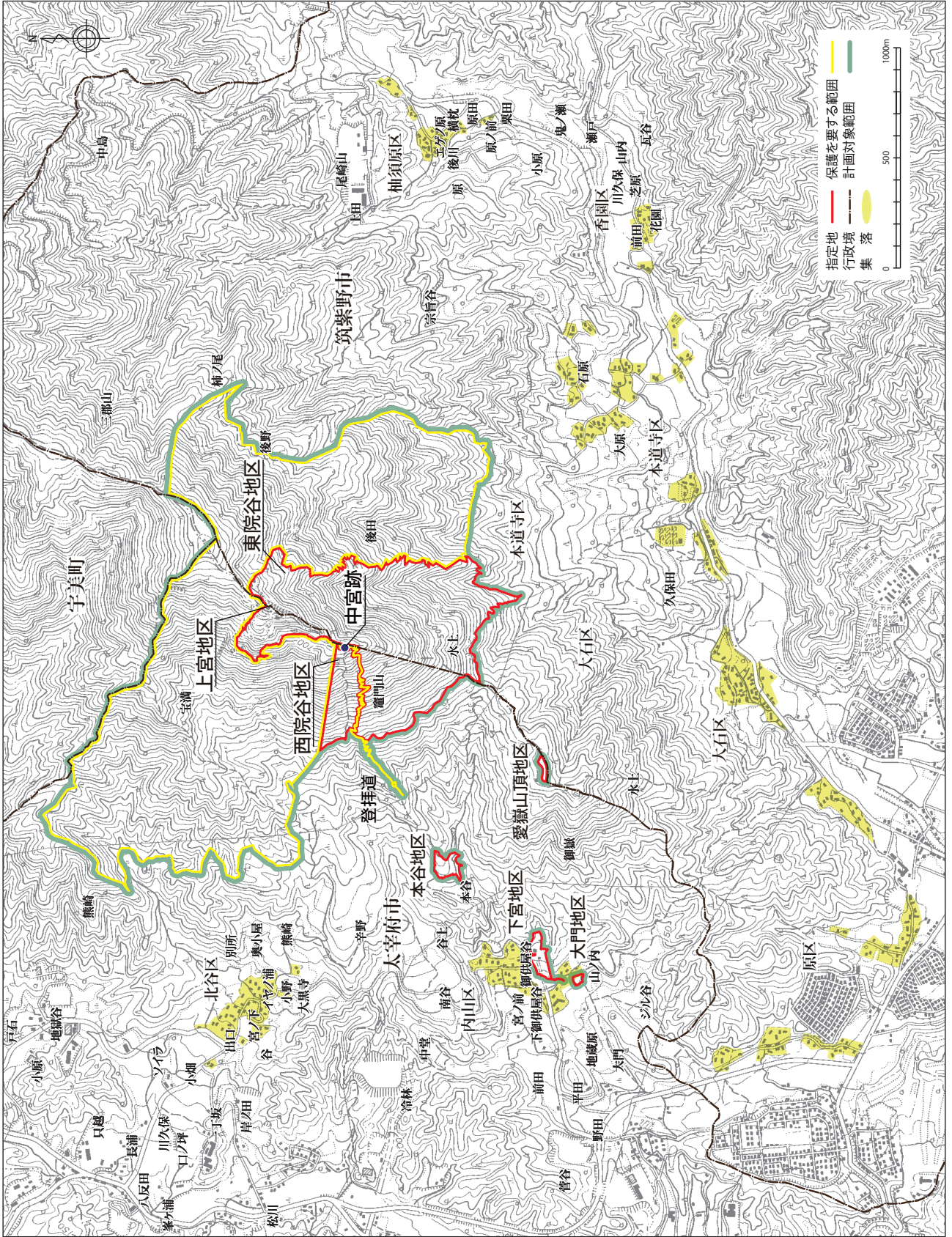


図 2-28 史跡周辺の集落